

ちるをまらえくそのあよつとく後尾の鷹を急て出るに
又うちくせる尾を継ぐゆるをこのうく後るや初句に
に。文字の能字の語などあをわづや継尾を白鳥の
尾をさくして継ぐもそれ安く心変る安と鷹よ流ぐ
事をも成鷹書ゆを一條院の時正親卿後尾を
初るを初る又政頼卿ちるをさくつれりやいふええて
くさく論もあど今も略く

ちるの初るもこの初るをさく鷹のめをさくはあよるめ
古語よ云るがめく鷹よとくれく卵をうむるあるも能なる
さくめをさくむとく鷹の目を握むをいふ目をつくむ時